

宍道湖流入・流出水調査月報

(平成12年1月期)

水質概要

1月の水温は、表1に示すとおり平年値(上層4.4、中層4.4、下層4.4)と比較すると中旬では若干高く、下旬では平年並の値を示していた。図1に示すように、1月下旬では上旬に比べ、3程度低下しており、1月20日以降急激な低下が見られた。1月においては高塩分水の流入時に2~4の水温の上昇が見られた。特に1月3~4日および1月20~21日の20psu以上の高塩分水の流入時には約3~4程の上昇であった。

1月の塩分は、表1に示すとおり平年値(上層3.9psu、中層4.5psu、下層5.6psu)と比較すると、上層・中層・下層ともに高い値を示していた。1月においては15psu以上の高塩分水の流入は11回観測された。

1月は、気圧低下と高塩分水の流入に顕著な関係が見られた(1月3日、6日、13日の3日間が顕著であった)(図2参照)

1月の溶存酸素濃度は、表1に示すとおり上層・中層・下層ともに7.1~10.1mg/lと比較的高い値を示していた(平均値:上層8.6、中層:7.9、下層:9.6mg/l)

図1に示すように、上旬から下旬にかけてほぼ同じ変動をしており、全層にわたって7.1~10.1mg/lと高い溶存酸素濃度の値を示していた。また、15psu以上の高塩分水流入時に溶存酸素濃度の低下が見られた。

表1 1月期の水質概要

		水温 ()	塩分 (PSU)	溶存酸素 濃度 (mg/l)
上旬	上層	6.9	6.8	10
	中層	7	7.4	7.6
	下層	7	8.3	10.1
中旬	上層	6.9	6.1	7.7
	中層	7	7.1	7.1
	下層	7	7.8	9
下旬	上層	4.6	6.3	8.2
	中層	4.7	7.1	8.8
	下層	4.7	8.6	9.5
月間平均 (1月)	上層	6.1	6.5	8.6
	中層	6.2	7.2	7.9
	下層	6.2	8.2	9.6

(水温・塩分平均値は、島根大学 宍道湖・中海水質月報、1994年3月より引用)

(表の中の数字は、平均値を示す)

水質

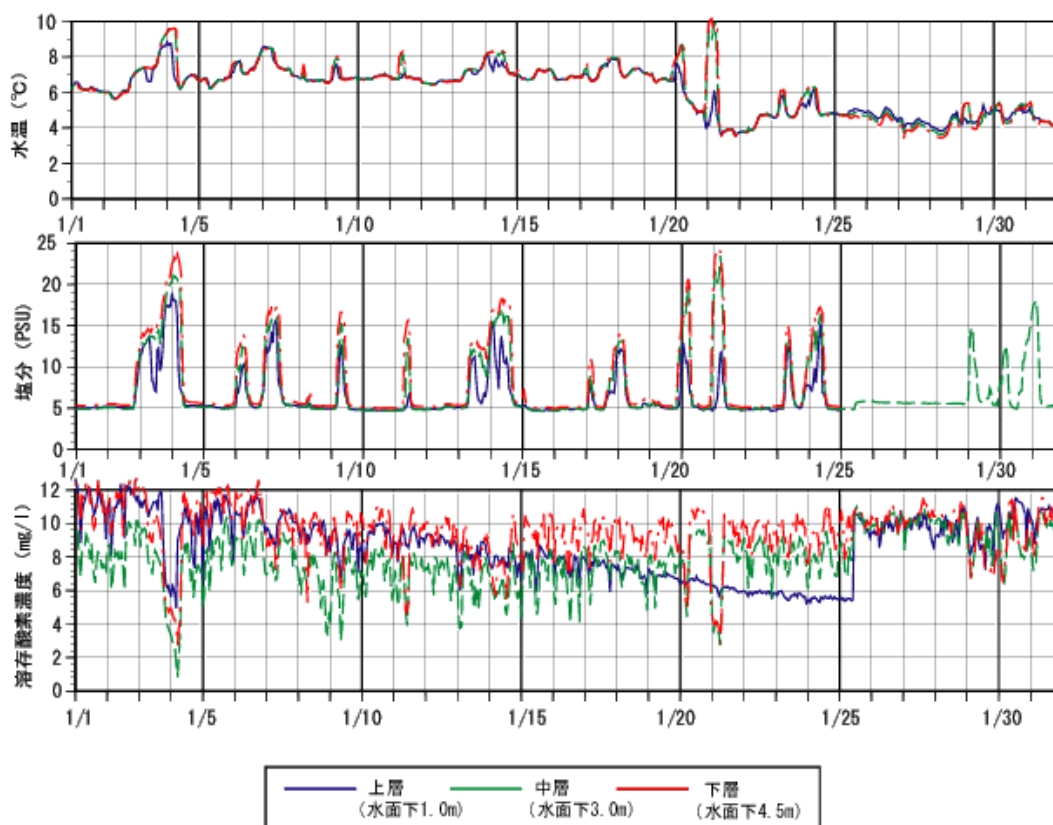


図1 水温・塩分・溶存酸素濃度の時系列変化

気象概況

1月は、表2に示すとおり、平均気温5.0（平年値3.7）であり、平年と比較して若干高かった。

図2に示すように、1月の気圧変動は、1月3日、6日、13日に顕著な気圧の低下が見られた。

平均気圧1016 hPaは、平年値（平年値1020 hPa）と比較して若干低かった。

表2に示すとおり、1月の日射量は、0.05 MJ/m²以下がほとんどであり、12月期と比較して小さかった（12月平均値：0.032 MJ/m²）。

1月の風向・風速は、平均風速3.1 m/sec（平年値3.9 m/sec、西風）であり、ほぼ平年並であった。

表 2 1 月期の気象概要

	気温 ($^{\circ}$)	気圧 (hPa)	風速 (m/sec)	風向	日射量 (MJ/m 2)
上旬	7.4	1014	2.8	南南西	0.031
中旬	5.8	1013	4.1	南南東	0.028
下旬	2.3	1020	2.4	南	0.029
月間平均 (11月)	5	1016	3.1	南	0.029

(平年値は、平成 11 年気象の暦 (山陰版) (財) 日本気象協会中国センターより引用)

(表中の数字は、平均値を示す)

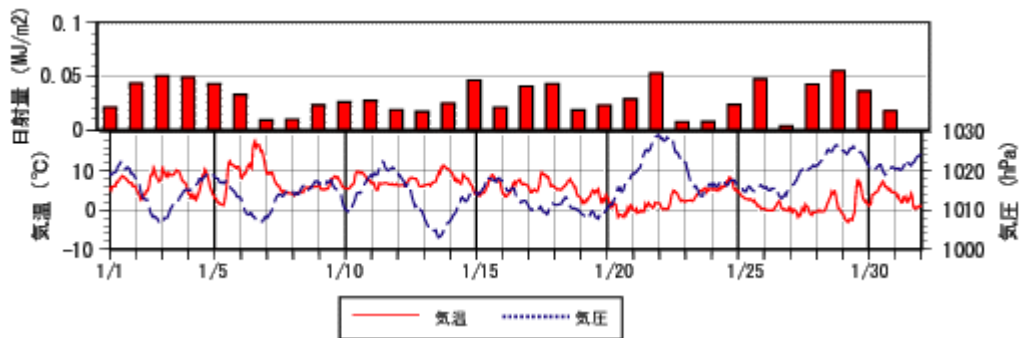


図 2 気温・気圧・日射量の時系列変化

流況

1 月の平均東方流速は、上層 12.3 cm/sec、中層 16.1 cm/sec、下層 15.0 cm/sec であった。また、図 3 に示すように、1 月の東方流速は、1 月 3 日、6 日、13 日の気圧低下時に中海から宍道湖へ向かう流れが卓越していた。

1 月においては、顕著な変動は見られなかった。

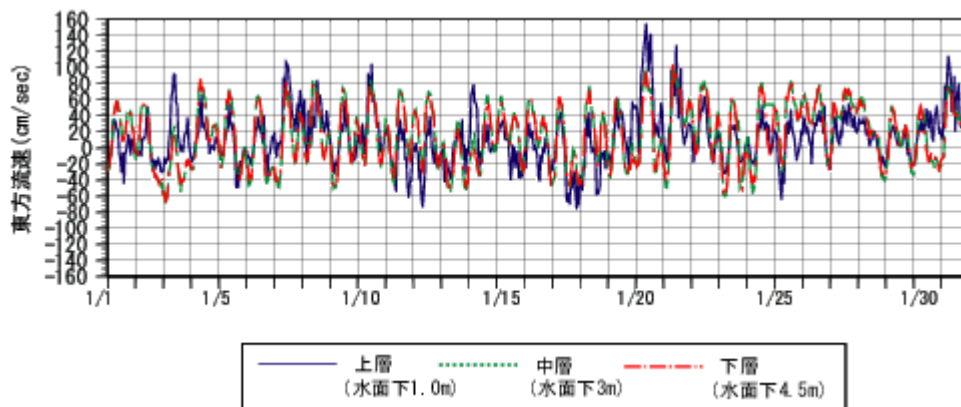


図 3 東方流速の時系列変化